

# 看護科 Q&A



## Q1 卒業時の資格について教えてください

高校卒業時点では、何の資格もあたえられません。高校卒業だけです。

専攻科2年間修了時点で得られるのは

- ① 看護師国家試験受験資格
- ② 准看護師資格試験受験資格
- ③ 助産師・保健師・看護教諭の養成所受験資格

5年間修了しても看護師国家試験に合格しなければ看護師にはなれません。

## Q2 看護師国家試験について教えてください

- 看護師国家試験は例年2月中旬に全国11箇所で行われます。
- 全国の合格率は例年90%前後です。年1回の試験ですので、試験に不合格となった場合は翌年に再受験ができます。しかし、併卒者の合格率は35.6%(5年一貫においては、30.4%)と低くなっています。
- 過去5年間の看護師国家試験合格状況は以下のとおりです。

試験年	全国			本校		
	受験者数	合格者数	合格率(%)	受験者数	合格者数	合格率(%)
平成29年	62,534	55,367	88.5	37	37	100
平成28年	62,154	55,585	89.4	38	38	100
平成27年	60,947	54,871	90.0	34	34	100
平成26年	59,725	53,495	89.8	37	37	100
平成25年	56,530	50,224	88.8	38	37	97.3



## Q6 自宅外通学の生徒はいますか

- 看護科は県内に1校しかありません。遠い東北エリアや三陸エリアから入学してくる生徒もいます。
- 学校には寮はありません。看護科で自宅外から通学している生徒は以下のとおり。下宿1名・アパート3名・親戚宅1名の5名です。

学年	自宅外通学	出身中学校
高校	1年	0名
	2年	0名
	3年	1名 気仙沼大谷・達隈
専攻科	1年	3名 秋保・米山・村田一
	2年	1名 気仙沼条南
合計	5名	



## Q3 看護科の男子生徒は何人ですか

平成22年から本校は共学になりました。現在男子生徒の人数は以下のとおりです。

学年	高校1年	高校2年	高校3年	専攻科1年	専攻科2年	合計
看護科人数	40名	39名	40名	39名	39名	197名
内男子人数	1名	2名	0名	5名	4名	12名

- 2014年の就業男性看護師は、7万3968名(看護師108万6779人のうち)であり、この10年で倍増しています。本校においても男子生徒が12名在学おります。
- 年々、男性看護師も男子看護学生も人数は増加しています。

男子の割合  
6.1%

## Q4 看護科の授業について教えてください

- 高校の時は、45分7コマ授業で、授業終了は15時40分です。専攻科になると、100分授業の4コマ、授業終了は16時35分になります。
- 高校3年間の専門科目の割合は、学年が進むと増えていきます。一般科目と専門科目の割合が7対3で、一般科目の授業が少ないため、高校卒業時に進路変更すると大学受験は不利となります。
- あくまでも5年間で卒業する気持ちで看護科を選択して下さい。
- 専攻科2年間は、圧倒的に専門科目が多くなり、専攻科2年では5月から9月まで実習になります。

高校1年		
高校2年	一般科目	専門科目
高校3年		臨地実習
専攻科1年	専門科目	
専攻科2年		臨地実習

## Q5 実習はどこで行うのでしょうか

学年	実習日数	実習施設
高校	2年	13日間
	3年	23日間
専攻科	1年	44日間
		72日間
	2年	72日間
		72日間
合計	152日間	43ヶ所

## Q7 5年間の経費を教えてください

平成29年度の授業料とその他納入金は以下のとおりです。この他に実習先までの交通費は自己負担となります。

学年	入学金	授業料	その他納入金	
高校	1年	5,650円	118,800円	63,000円
	2年		118,800円	59,500円
	3年		118,800円	82,300円
専攻科	1年	5,650円	118,800円	133,000円
	2年		118,800円	85,000円

※保護者等の市町村民税所得割額(合算額)が304,200円未満の世帯の生徒に、授業料に充てる就学支援金が支給されます。

## Q8 卒業後、大学へ編入できると聞きましたが、本当でしょうか?

- 大学でさらに専門性を深めたいと希望する高校専攻科の修了者に大学編入資格が認められるようになりました。



## 看護科卒業生から Message

現在私は、幼い頃からの夢であった看護師として、がん専門病院で働いています。患者様や先輩看護師からたくさんのことを教えて頂き、勉強と経験を積み重ねて、日々自己研鑽に励んでいます。

思い返せば高校から専攻科までの5年間は私にとって大きな財産となりました。実家が学校から遠く、高校時代は下宿生活を送っていました。15才だった私にとって親元を離れて暮らすことは大きな決断であり、つらい時もありました。しかし、私は決して1人ではなく同じ夢を持った仲間と切磋琢磨し合い、信頼できる先生方に支えられながら、多くの苦難を乗り越えていくことが出来ました。

看護師になりたいという夢を持っている皆さん、白石高校で看護を勉強することは最短で夢を叶えることができるだけでなく、10代の多感な時期から患者様と関わることで、人とつながる大切さや看護観・死生観を学び深めることができます。「看護師になる。」そう強い意志を持っているのであれば、是非白石高校で学んでみてください。皆さんの夢を心より応援しています。



がん研有明病院勤務

東日本大震災で目にした現実から看護師を志し、少しでも早くになりたいという思いで白石高校の門をくぐってからの5年間。今振り返ると、入学してからの時の流れは早く、看護科での5年間はあっという間に過ぎていきました。しかし、ここでの学び、経験は人生の中で最も自分を成長させたと思えます。

高校生活は、これまでの環境とは大きく変わり男女の比率に圧倒されました。女子が多いことで男子の入る間がないと初めは感じていましたが、時間と共に男女の差はなくなり馴染むことが出来るようになります。先生方には男子がクラスにいるのといかないのでは、クラスの落ち着きが違うと言われるので男子がいるだけでいい影響があると思えます。

専攻科にはいってからは、実習の日数も増え、質も上がり、班での活動が多くなりました。話し合いが多くなると、男女の意見の食い違いの相違が生じまともありませんが、そんな経験も自分の財産となり成長していったのではないかと思います。実習でも学校生活でも看護科の先生や友達を支えてくれ、実習などは正直辛かったです。乗り越えられました。たくさんの人から支えてもらった5年間、家族や先生方、クラスメイト、みんなに感謝しています。

現在は脳神経内科で看護師として働いています。毎日が新鮮で分からないことばかりで日々勉強ですが、病棟では実習での看護が活かされる面もあり、あの頃頑張ったよかったですと改めて思いました。そして、白石高校看護科で看護を学ぶことができたことを誇りに感じています。これからも看護師として患者様と同じ視点に立ち、信頼され、支えることが出来るよう毎日頑張っていきます。



独立行政法人国立病院機構宮城病院勤務

今あなたは自分の意志で看護科への入学を希望していますか? 15歳という年齢で自分の将来を見据え、看護師になると決断することは、とても覚悟のいることです。この質問に迷うこと無く「はい」と答えられたあなたは、自分の選択に自信を持ってください。

新しい環境や友人関係、勉強についていけるだろうか…。不安を挙げればきりがありません。この春、5年一貫教育を無事に終えた私から伝えられることは、看護科には、病院や施設で実務経験を積まれた心強い先生方がいるということです。あなたの志を全力でサポートして下さる方々が勢いがあるので安心して下さい。また、クラス替えが無く、5年間を共に過ごす仲間の存在は、あなたの大きな支えとなり人生の宝物になるはず。5年間、その強い志と決して揺るぐことのない夢があれば、どんなことも乗り越えて行けると思えます。頑張ってください。

この春から、私自身も看護師として新しい一歩を踏み出しました。毎日が勉強の日々で、慣れない環境の中、学生の時とは違う責任の重さを改めて感じています。医療の現場は日進月歩の世界です。常に向上心を持ち続け知識と技術を磨き、患者様と家族に寄り添い、信頼される看護師になれるよう努力を重ねて行きます。



宮城県立病院機構  
がんセンター勤務

私は「看護の道に進み、少しでもはやく人の役に立ちたい」という思いから、5年一貫教育である白石高校看護科に入学しました。専攻科を卒業した現在、私は助産学校に進学し、助産師を目指して勉強しています。助産学校での日々は忙しいですが、クラスメイトや先生方に恵まれ、とても楽しく充実しています。今こうして助産学校で助産学を学ぶことができていますのも、白石高校で過ごした5年間と、進学したいと考えていた私のことを支えてくれた周りの友達、先生方がいてくれたおかげです。白石高校での5年間は楽しいことばかりでなく、辛く大変なこともありましたが、クラスのみんなと支え合い過ごした時間は、私にとってかけがえのないものとなりました。

助産師には大きな責任感や正確な判断力が必要であるということ、助産学校に入学して改めて感じています。助産師としてより専門的な知識や技術を身につけていかなければなりませんが、助産の基礎となるものは看護です。私は5年間を通して看護を学んだことでしっかりと基礎が身についたように感じます。白石高校で学んだことを活かし、今後は自分の理想とする助産師を目指してさらにがんばりたいと思います。



独立行政法人国立病院機構  
仙台医療センター勤務